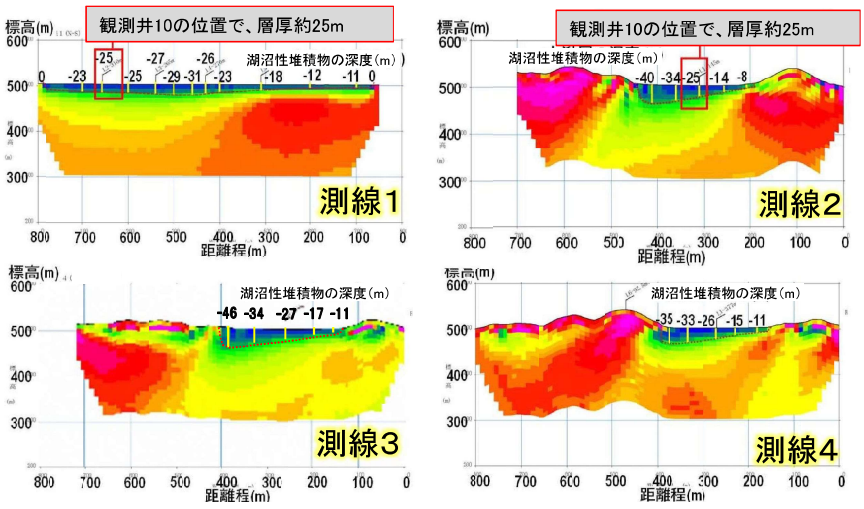
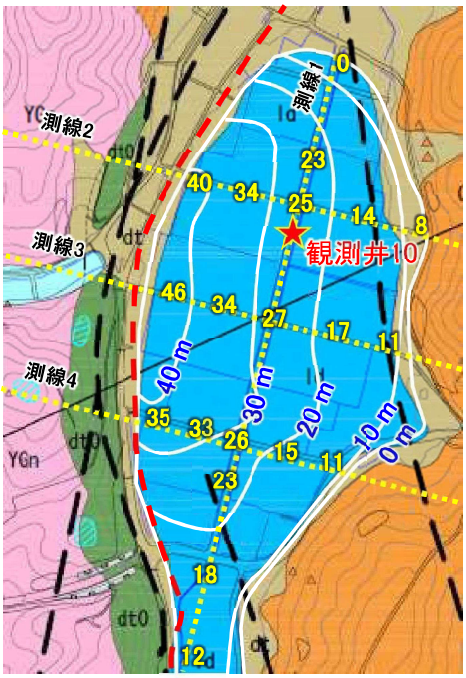
盆地内（湖沼性堆積物（砂質土・砂れき・粘性土層））の層厚の想定

- 圧密沈下が発生すると想定される湖沼性堆積物の層厚を、以下の手順で想定しました。
- 盆地中央部のボーリング（観測井10）の調査結果、湖沼性堆積物の層厚は25mでした。この値を基準として、電気探査の結果から各点の層厚を算出し、分布状況を想定しました。
- 湖沼性堆積物の層厚は、西側で最も厚く約40mであり、東側に向かうにつれて薄くなります。



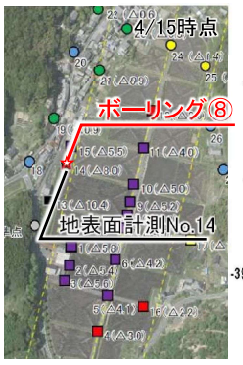


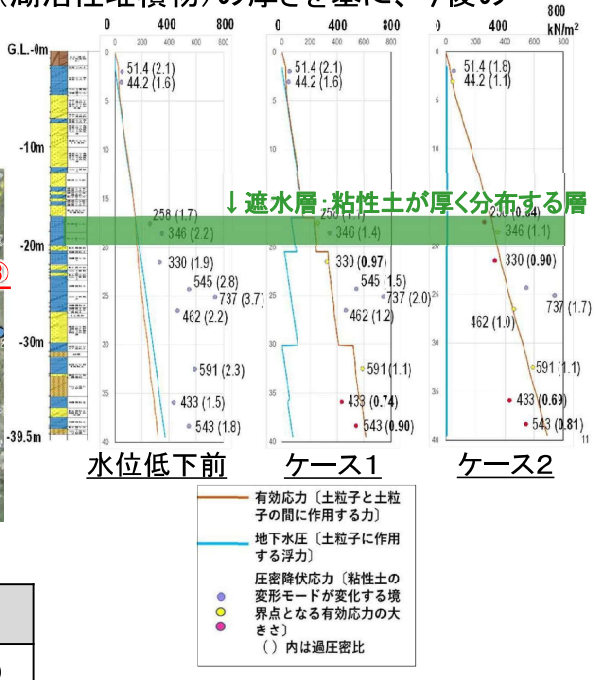
大湫盆地における
湖沼性堆積物の分布（想定）

② 今後の見込み（地表面低下量）

盆地内の湖沼性堆積物層がある地域においては、引き続き圧密沈下が進行するものと考えられます。

- ボーリング⑧の試験結果などから圧密沈下が起きる層（湖沼性堆積物）の厚さを基に、今後の沈下量を予測しました。
- 深さ17～20m付近に遮水層があり、浅い地層の地下水位は、現在も維持されている現地の状況を踏まえた予測（ケース１）と、浅い地層の地下水位も低下した場合の予測（ケース２）を行いました。
- 分析の結果、ボーリング⑧（盆地西部）における湖沼性堆積物の層の推定沈下量の予測は、下表の通りであり、その他の地点も同様の地質構造と仮定すると最終的な沈下量は現状の2倍から3倍程度となると推定しています。



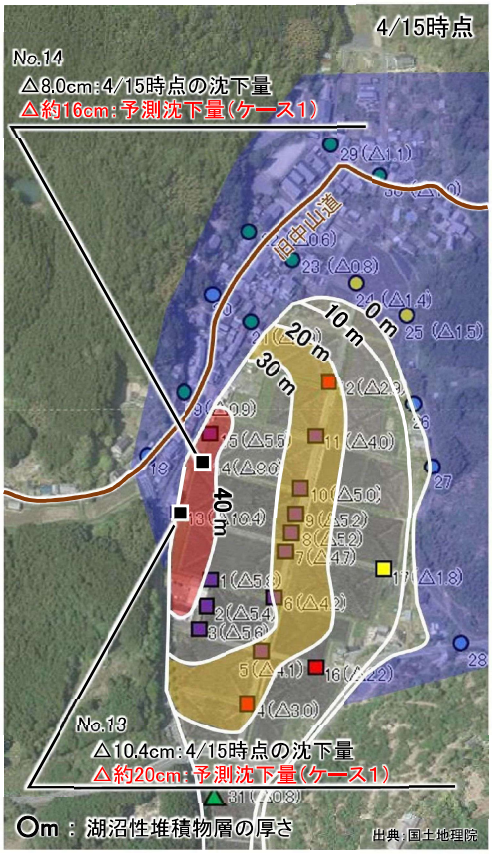


土中の有効応力と水圧の状況

ボーリング⑧（No.14）地点での予測沈下量

	圧縮沈下量 S（砂・砂礫）	圧密沈下量 C（粘土）	予測沈下量 S＋C
ケース１	1.3cm	14.3cm	15.6cm（現状の2倍程度）
ケース２	2.5cm	23.9cm	26.4cm（現状の3倍程度）

② 今後の見込み（地表面低下量）



- 各種調査から推定した湖沼性堆積物の厚さを基に、図に示す①～③のエリアに分け、それぞれのエリアにおける今後の地表面低下量を予測しました。
- ③赤色エリアでは、今後、8～16cm沈下が進行する可能性があり、最も沈下量が大きいNo.13（消防センター付近）では、今後、10～20cm程度沈下が進行する可能性があります。
- 一方、湖沼性堆積物層が存在しない①青色エリア（旧中山道沿いのエリア）では、今後沈下は進行しないと予測しています。

それぞれのエリアにおける今後の予測沈下量

湖沼性堆積物層厚さ	4/15時点の沈下量（平均）A	予測沈下量（平均）B	今後進行する沈下量（平均）B−A
① 青色エリア 湖沼性堆積物層なし	△1.0cm	△1cm	0cm
② 黄色エリア 20m～30m	△4.3cm	△約9～13cm	△約5～9cm
③ 赤色エリア 40m～50m	△8.0cm	△約16～24cm	△約8～16cm

地表面計測結果 5月28日時点

